

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：県産材流通対策費

事業名 木質バイオマス加工流通施設等整備事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 県産材流通課 資源活用係 電話番号：058-272-8483

E-mail：c11545@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 129,062 千円 (前年度予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	129,062	129,062	0	0	0	0	0	0	0
決定額	129,062	129,062	0	0	0	0	0	0	0

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

地球温暖化防止対策や東日本大震災の教訓から再生可能エネルギーの一つである木質バイオマスエネルギーに対する期待は高まっている。

県では第二期岐阜県森林づくり基本計画（以下、基本計画。）の木質バイオマスエネルギーへの転換プロジェクトに基づき、木質バイオマスエネルギーの推進を進めてきたところであるが、こうした中、平成26年度に瑞穂市において、県内初となる間伐材等未利用木材を主な燃料とする木質バイオマス発電施設が稼働した。また、令和2年度には2号機が稼働を開始した。今後は発電施設等の木質バイオマス利用施設を安定的に稼働させるための燃料供給体制づくりが必要である。

そのため、国の「林業・木材産業成長産業化促進対策交付金」を活用し、木質バイオマス利用促進施設の整備に対して助成する。

(2) 事業内容

【事業主体】 木材関連業者等の組織する団体、森林組合、民間事業者等

【事業内容】 燃料配送車、チップー等

【補助率】 1 / 2 及び 15 %

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・補助金の財源は国庫支出金のため県負担なし
- ・補助率は、国が設定

(4) 類似事業の有無

なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	129,062	
合計	129,062	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画（令和4～8年度）

(2) 国・他県の状況

国は、林業・木材産業成長産業化促進対策交付金事業により木質バイオマスの利用を推進している。

(3) 後年度の財政負担

利用施設の整備に合わせ、後年度以降も事業を実施していく。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

第4期岐阜県森林づくり基本計画で定める、計画終期である令和8年度の木質バイオマス利用量（燃料用途）250千m3を目標とする。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①木質バイオマス 利用量(燃料用途)	128千m3	127千m3	147千m3	154千m3	250千m3	51%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2 年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。 事業未実施</p> <p>指標① 目標：98千m3 実績：128千m3 達成率：131%</p>
令和3 年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。 事業未実施</p> <p>指標① 目標：100千m3 実績：127千m3 達成率：127%</p>
令和4 年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>エネルギー自給率の向上、地球温暖化防止への対応として、再生可能エネルギーの一つである木質バイオマスエネルギーに対して期待が高まっており、事業の必要性は高い。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>木質バイオマス利用量が事業開始前と比較して増加しており、事業効果が現れている。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>木質バイオマス利用促進施設については、木質バイオマス利用量を増加させる効果の大きいものから優先的に予算を配分するなど、効率化が図られている。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 間伐材等未利用木材は、県全域に広く分散しており、また取引価格も安く収益性が低いことから、活用を促進するためには各地域に即した木質バイオマスエネルギー循環（地産地消）システムづくりを推進する必要がある、その一環として、木質バイオマス利用促進施設の導入を促進する必要がある。</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 再生可能エネルギーの一つである木質バイオマスエネルギーへの期待が高まっている中、木質バイオマスエネルギーへの転換及び間伐材等未利用木材の有効活用を図るため、次年度以降も事業の継続が必要である。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	